

船場御坊

せんばごぼう

[発行日]2023(令和5)年10月1日

[発行人]真宗大谷派姫路船場別院本徳寺

輪番 加藤 真樹

Shinran
500
年

—宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃テーマ—

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

GOSYUFUKU - TSUSHIN

御修復通信

第二号

◎表門御修復工事起工式(7月24日)

7月24日(月)午後2時から表門(山門)前にて宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要特別記念事業姫路船場別院本徳寺御修復奉告式典表門起工式法要を執り行いました。法要の後、神田組による御修復始の儀が執り行われ、教区同朋会館(姫路)講堂に移動し、加藤輪番、尾瀬設計士、神田組、湯朝御遠忌委員会委員長の挨拶がありました。



◎第3回 宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会開催(7月24日)

起工式に引き続き、教区同朋会館(姫路)講堂にて第3回姫路船場別院本徳寺宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌委員会を開催しました。

委員会では、加藤真樹輪番、湯朝岳明御遠忌委員会委員長の挨拶の後、事務局より6月21日に実施された表門(山門)御修復工事の入札結果について、入札価格1億2400万円で「株式会社神田組」が落札し決定したことを報告しました。

次に、表門御修復工事の日程について尾瀬設計士より説明の後、事務局より御修復工事特別懇志と一般懇志の収納状況について報告がありました。募財期間が残り3ヵ年度となるなか、御修復懇志の全寺院完納に向けて引き続き募財奨励を行うとともに、崇敬各組において未収納寺院への具体的な働きかけを行っていただくことが確認されました。



◎表門（山門）破損状況及び御修復の様子

現在、表門の周囲を仮囲いし、御修復に向けた準備をすすめています。今年度は、素屋根を立てて山門を覆い、瓦降ろし、野地板撤去、揚屋、軸組解体と工程が進んでいきます。また表門御修復と並行して、袖塀の解体工事も実施いたします。2025年5月の工事完成までの期間中、表門は終日閉門しておりますので、駐車場入り口よりご参拝ください。ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

山門



屋根瓦は全体的に緩み、瓦は劣化している。右側鬼瓦の鱗（ひれ）が欠失している。
背面中央部軒先に雨溜りによる破損が見られる。小屋根組は棟に不陸があることから、棟木が破損している可能性がある。



正面右側礎石が沈下し、両親柱の礎石の一部が風化している。
土間敷石および雨垂石に不陸が発生しているとともに、蹴放（けはなし・扉の敷居）下の礎石も風化している。



十七世紀中期（推定）築

桁行柱間寸法	4.483m (14尺7寸9分)
梁間柱間寸法	4.036m (13尺3寸2分)
軒の出	1.622m (5尺3寸5分)
軒高	4.193m (13尺8寸4分)
棟高	7.321m (24尺1寸7分)

南袖壁
全長11.97m、本瓦葺、東西表面切妻造、本瓦葺

北袖壁
全長12.3m、本瓦葺、東西表面切妻造、本瓦葺

全体に装飾の少ない簡素な四脚門である。細部の彫刻などは控えめであるが、正面の臺股（かえるまた）の脚面の全面にはみ出す龍の彫刻が飾られている。その他、側面の臺股は外側は兎と波、内側は亀と波で飾られ、内側に下がり藤の紋様を刻んでいる。簡素で優れた細部を持った四脚門として貴重である。

『姫路市文化財指定理由書一部抜粋』



袖塀（そでべい）は屋根・壁・軸部の全体におよび、根本修理が必要な状況である。
屋根瓦は全体的に緩み、瓦は劣化している。北袖壁の正面妻部は瓦が落下している。
軸部は、接する南側の地盤が塀より高く、雨水が流れ込み、木部が腐食し、中央が大きく沈下する。
柱間装置・仕上げ瓦の破損により、妻部や谷部には雨溜りが発生し、破風板（はふいた）や軒先などの木部に腐食が見られる。

